

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
平成19事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成20年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

○評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

○大項目ごとの評価は、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」のいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○各大項目の特筆すべき事項の代表的なものとしては「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目において、学生に対してコンクールへの参加を積極的に支援した結果、より質の高いコンクールでの入賞を果たせたことや「サービスマーケティング」の開設、自治体との連携など地域貢献として大きな役割を担っていること、また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目において、事業見直しによるコスト削減や特別枠による重点予算の編成などがあった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

<委員会からのコメント>

・大分県立芸術文化短期大学は、地方独立行政法人化2年目においても、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行しており、世界的に著名な演奏家を招いて公開レッスンを実施するなど、順調に取組が進められている。今後は、特に以下のことに留意しながら、より大きな成果が得られるよう、更なる取り組みの推進を期待する。

（留意点）

- ①年度計画の策定にあたっては、数値目標を掲げるなど、目標に対する実施結果が客観的に判断できるように、より具体的な記載内容とすること。
- ②任期制の導入にあたっては、メリット・デメリットを十分に検討のうえ、早期に大学としての方向性を示すこと。
- ③他大学とのタイアップ事業や人事交流などを今後更に推進することにより、他大学の優れた点を積極的に取り入れること。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、163項目全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価にあたり勘案した事項」に示しているように、学生のコンクールへの参加を積極的に支援した結果、より質の高いコンクールでの入賞を果たせたことや学んだことを社会に生かす「サービラーニング」の開設、自治体との連携など地域貢献としての取組が進められたことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから、大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。
（（ ）は小項目評価の記号【 】はウエイト付け）
- 「情報機器基礎演習」以外の入門教育を行うコマの設定 (I-1-(1)ア(ウ))【2】
・「情報機器基礎演習」を受講しない全学生を対象に安全安心なネットワークの利用など「情報処理入門」講座を開催するとともに、平成20年度からDTP(DeskTop Publishing、机上出版)及びフラッシュコンテンツに関する科目を新設することとした。
 - 主体的に自己を表現し社会に参加する能力の育成を目的とした「サービラーニング」の開設 (I-1-(1)イ(ア)a)【2】
・学んだことを社会に生かす「サービラーニング」を開設し、「鶴崎SAEMON23」「商店街ホームページ作り」「グリーンコープとの共同商品開発」等の約20のプログラムに多くの学生が参加した。
 - 情報メディア領域に「新聞雑誌制作演習」を開講 (I-1-(1)イ(ア)a)【2】
・「新聞雑誌制作演習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、予定の授業時間数を倍増するなど実践的授業で内容の充実を図った。
 - 「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」を新設し、編入学のための論文指導を強化 (I-1-(1)イ(ア)a)【2】
・「新入生アンケート」や「領域選択科目に関するアンケート」を実施した結果、履修科目数に柔軟性を持たせ、学生が個々の興味関心に応じた科目履修が可能になるよう平成20年度から改善することとした。
 - 音楽科における演奏会等への学生参加の促進と「地域巡回演奏会」等による地域社会への演奏活動の充実 (I-1-(1)イ(イ)a)【2】

- ・「若さあふれるコンサート」を年6回実施し、多くの学生が参加できた。
また、音の泉ホールでのクリスマスコンサートなど、県内各地域で巡回演奏会や出前コンサートを実施した。
- 日本美術史関連の科目における美術館・博物館等の見学の取り入れ
(I-1-(1)イ(ウ)abc)【2】
- ・九州国立博物館（福岡県太宰府市）をはじめ石橋美術館（福岡県久留米市）、「上野丘周辺文化財（大友館跡、金剛宝戒寺、岩屋寺石仏）などの見学を実施したほか、由布市庄内町・挾間町での現地調査、米国の画家ノーマン・ロックウエルの作品鑑賞、北京・敦煌研修旅行などを実施した。
- 日本語基礎能力教育についてテキストや教材等の情報収集
(I-1-(1)イ(ウ)abc)【2】
- ・日本語基礎能力の向上を目的としてテキストや教材の情報収集を行うとともに、ニュース時事能力検定試験を実施し、7名の合格者を出した。
- 「サービラーニング」を開講による地域社会と連携した体験学習を強化及び地域活動への参加促進による地域活性化、集団内での自己表現等の学習
(I-1-(1)イ(ウ)abc)【2】
- 日本語文章能力検定試験の試験的導入
(I-1-(1)イ(ウ)d)【2】
- ・日本語文章能力検定試験に備えて、週1回の勉強会を開催するなどの対策を行った結果、7名の合格者を出した。
- 情報メディア関連の実習科目「新聞雑誌制作演習」の開設
(I-1-(1)イ(ウ)f)【2】
- ・予定の授業・時間数を倍増して「新聞雑誌制作演習Ⅰ・Ⅱ」を開講するとともに、学科FD(ファカルティ・ディベロップメント、教員が授業内容や方法を改善・向上させていくための取組)ミーティングの開設、書評コンクール、ミュージカル「嵐が丘」の上演を行った。
- 日商PC検定試験のための教育環境の充実及び研修会、模擬試験の実施
(I-1-(1)イ(ウ)f)【2】
- ・日商PC検定に備えて研修会や模擬試験などを実施した結果、82.6%という高い合格率を得た。
- 演奏会やコンクールへの学生の参加促進及び当該環境整備の検討
(I-1-(1)エa)【2】
- ・音楽専攻において、九州地区で行われているコンクール等ばかりでなく、全国規模のコンクールや国際コンクール等ハイレベルなものへの積極的な参加を促した結果、「日本ピアノ教育連盟第24回オーディション」「第56回南日本音楽コンクール」「第9回シヨパン国際コンクールin Asia九州大会」など合計23のコンクール等で入賞、入選、合格を果たした。
- 各種コンクール等の情報提供及び参加促進
(I-1-(1)エb)【2】
- ・造形専攻において、各種コンクール等の積極的な参加を促した結果、宇佐・両院地域キャラクターデザインコンテストでは4部門でグランプリ、最優秀賞6点、奨励賞6点を受賞した。また、豊後大野市千歳町特産物直売所の壁画制作、酒蔵会社との商品ラベル制作などを行った。
- 学生の教育に資すること等を基本的条件とした特別講座開催の検討
(I-1-(2)ア(オ)a)【2】
- ・世界規模で名のある現役演奏家トリオ・ボヘミカによるワークショップをはじめ、

- 佐藤美枝子客員教授による公開レッスンを一般公開により実施し、学生のみならず地域貢献にも大きな役割を果たした。
- 県内の著名人による「地域社会特講」の実施 (I-1-(2)ア(オ)b)【2】
・大分県行政経験者による「地方行政法」などの「地域社会特講」を実施した。
- 県外の著名な研究者や有識者による特別講座の実施 (I-1-(2)ア(オ)b)【2】
・TBSテレビ・ディレクター鴨下潔氏による「現役ディレクターに学ぶ最新ドキュメンタリー制作秘話」、毎日新聞元編集局長篠原治二氏による「私の新聞論」など12の特別講座を実施した。
- 補習授業の具体的方策の検討 (I-1-(2)イ(イ))【2】
・学生の補習希望に十分応えられるよう専任教員と非常勤講師とで補習レッスンを実施した。
- 入学前指導と1年次前期開講の「教養ゼミナール」との連携の検討 (I-1-(2)イ(ウ))【2】
・推薦入試合格者・一般入試合格者への入学前指導として、推薦図書リストを提示した。また、推薦入試合格者に対して英語・社会・国語の課題を課し、採点結果とコメントを送付した。
- 大学案内・大学ホームページ・広報紙「エピストゥラ」の内容改善及び印刷物の効果的な配布先・配布方法の検討 (I-1-(3)イ(ウ))【2】
・ホームページ担当の専任職員を配置し、大学案内を増ページしたほか、広報誌「エピストゥラ」に通年の編集担当者を置き、内容の充実、フルカラー化、発行部数の増を行った。
- 全学生対象とした図書館利用ニーズの調査 (I-1-(3)ウ(ア)b)【2】
・全学生を対象にアンケート調査を実施したほか、県内初の全学生による選書ツアーの実施など、図書の整備に学生のニーズを反映させた。
- 教務学生部におけるネットワークによる学生の履修登録等の導入検討及び教員の成績入力の平成19年度試行実施 (I-1-(3)ウ(ウ))【2】
・ネットワークを介しての学生の履修登録を平成19年度後期から完全実施した。また、教員による成績入力についても後期から本格的に実施した。
- インターンシップの実施及びインターンシップ協力企業・団体の充実 (I-1-(5)イ(ア)a)【2】
・進路支援室に加え、人文系2学科の教員もインターンシップ先の企業を担当した結果、協力企業は昨年度より17社増えて56社となり、学生の選択肢が増加した。
- 各自治体との連携強化による出前講座や演奏会の実施 (I-3-(1)ア(イ)b)【2】
・宇佐市、豊後高田市の地域巡回演奏会をはじめとして、大分県や各自治体との連携を強化し、演奏会などを実施した。
- 自治体の各種審議会・委員会への積極的な参画による政策立案等への貢献 (I-3-(1)イ(ア)a)【2】
・おおいた都心まちづくり会議委員やチャレンジ！大分国体式典委員、大分市複合文化交流施設基本構想策定委員会委員などの各種審議会・委員会に参画し、政策立案等に貢献した。
- 自治体や関連機関と連携した各種研修会やセミナー、啓発活動等の支援 (I-3-(1)イ(ア)b c)【2】
・大分市の新規事業「まちなか学び直し講座」の実施に協力するための協議を行なったほか、由布市からの小中学校情報化支援事業の受託や大分県立図書館主催の公開

講座「中世大分の歴史と文化」への講師派遣などを実施した。

○「海外語学実習」の協定校等への実習生派遣 (I-3-(2)イ(イ)a)【2】
 ・新たに協定締結した韓国ソウル市立大学校を含め、協定を締結している海外の大学で計27名が「海外語学実習」を実施した。また、韓国釜山市の東西大学校とメディア実習協定を締結し、平成20年度から「海外メディア実習」が開講することとなった。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	123 (35)			101 (13)	22 (22)
研究	18			18	0
社会貢献	22 (10)			18 (6)	4 (4)
合計	163 (45)			137 (19)	26 (26)
ウエイト考慮 後の合計	208			156	52

() はウエイト付けした項目数

※小項目163項目の全てがⅢ又はⅣの評価であることから、小項目評価の集計では、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○「大学の積極的な取組の結果、世界規模で名のある現役演奏家トリオ・ボヘミカを招聘できたことは、評価できると思われる。」

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、14項目全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価にあたり勘案した事項」に示しているように、事業見直しによるコスト削減や特別枠による重点予算の編成では、計画以上の成果を達成している。
- 各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。
（ ）は小項目評価の記号【 】はウエイト付け）
- 経常的経費の見直しと重点領域を定めた政策的な予算の編成（Ⅱ-1-(2)a)【2】
・経常的経費については、事業の見直しを行い、コスト削減を図るとともに、平成20年度予算編成では、目的積立金を財源とした特別枠による重点予算を編成した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
運営体制	7 (1)			6	1 (1)
人事の適正化	7 (2)			7 (2)	
合計	14 (3)			13 (2)	1 (1)
ウエイト考慮 後の合計	17			15	2

()はウエイト付けした項目数

※小項目14項目の全てがⅢ又はⅣの評価であることから、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 「任期制の導入にあたっては、メリット・デメリットを十分に検討することが望ましい。」

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、11項目が全てⅢの評価であるため、A（計画どおり進んでいる）となる。
 ○他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	5(1)			5(1)	
外部資金等の 獲得	3			3	
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	11(1)			11(1)	
ウエイト考慮 後の合計	12			12	

() はウエイト付けした項目数

※小項目11項目の全てがⅢの評価であることから、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○「科学研究費補助金については、積極的な申請を行い、増収に努めることが望ましい。」

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、10項目が全てⅢの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	5			5	
情報公開	5			5	
合計	10			10	

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目10項目の全てがⅢの評価であることから、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、10項目が全てⅢの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1			1	
安全管理	5			5	
人権啓発推進	4			4	
合 計	10			10	

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目10項目の全てがⅢの評価であることから、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。